

みなとぴあボランティアレター 第28号

新潟市歴史博物館 みなとぴあ/2015.11

ガイドのかたち

5月の塔屋見学会における敷地・常設クイズラリーを皮切りに、7月20日の敷地スタンプラリー、8月22日・9月21日の常設クイズラリーと、通常のガイドツアーとは異なるガイドスタイルへの挑戦がつづいています。



【発案者・木村郁子さんの報告（9/27 定例会）】

8/22, 9/20 に常設クイズラリーを実施し、両日とも50名以上のお客様が参加して下さり、大盛況でした。遠方からの観光客が多く、スタンプや景品の土偶マグネットも、記念になるということで好評でした。

両日とも、初めて実際にガイドをするというボランティアがいたのですが、良い経験になり、自信がついたようです。

今後の予定としては、来年度の4月のお花見の時期に敷地スタンプラリーを実施したいと思います。景品の一つとして、ワラ紙のハガキに江戸紋切りの桜や梅を貼ったものを作ります。冬の間に数回集まる予定です。都合のつく方は是非参加してください。ボランティアの種類や経験は問いませんので、ボラ同士の交流にもなって良いと思います。「最近顔を出していないなあ」という方も、是非どうぞ！

来場者の方が想像していた以上に興味をもって聞いてくださったのが嬉しかったです。そこにあるモノが、ひとが介在することによって、モノ以上の存在感をもつことできるのだと、初心者インタープリターとして喜びを実感できた日でした。ありがとうございました。（山本さん）

ガイドの試験に受かって初めて参加したのが敷地スタンプラリーでした。一つの敷地のガイドを繰り返し行うので、初めてで自信がない自分でもガイドをやり易かったです。初めてガイドをやってみると、思ったよりもお客さまが自分の話に興味をもって聞いてくれるので、もっと自分の知識を深めたいなあと思われました。建物をお客さまが「すごいわねえー」と褒めてくれる姿を見てなんだかとても誇らしく嬉しい気持ちになりました。もっと新潟の歴史を知って色々な人に伝えられるようになりたいと思いました。（吉田さん）

夏、ひろがる活動

7/15 にいがた歴史探訪 幻の関屋掘割の跡歩き

【企画者・吉田幸二さんよりひとこと】

明治維新の前後に、3つの幻と云われる騒動があった。①元治元（1864）年、会津藩領になった青山・関屋の地に、新潟湊の「仲金」を逃れるために日本海から阿賀野川に抜ける掘を掘削した「会津藩の塩騒動」と云われる事件。②明治2（1869）年正月すぎ、大河津分水の要求が聞き入れられず関屋の地を自ら掘削した「亀田郷の百姓一揆」。③明治42（1909）年坂井郷普通水利組合が新川排水路から西川下流の排水のための掘削。しかし、何れも成功しなかった。「つわものどもが夢のあと」である。皆さん、暑さのなかご苦労様でした。



信濃川水門を眺めながら解説をしてくださる吉田さん

7/25 まといだし 三番組の纏(山車)の組立て

文化庁の支援を受けた「湊祭復元事業」の一環として、当館に寄贈されていた三番組の纏(山車)の組立てが試みられました。一つ一つ重量のある部材を大勢で組み上げていく様子はまさに建設現場。重労働です。ご協力くださったボランティアのみなさまのおかげで何とか完成できました。本当にありがとうございました！



組み上げた纏の台部分を、車輪に取り付ける様子

7/26 暑気払い

今年もみなとびあにビアガーデンが出現！朝採り枝豆やビールをお供に、夏の夕暮れを涼しく楽しみました。

ビールや弁当の手配、会場のセッティングなどもボランティアたち自身で行います。日が暮れると各テーブルに置かれたキャンドルに灯りをともすというステキな演出まで。手づくりで贅沢な時間を過ごしました。晴れて本当によかったです。



カンパイ！！

7/30 市歴史系博物館・資料館ボランティア交流会

新潟市が管理する歴史系博物館・資料館のボランティアが集まり、それぞれの活動について情報交換を行う交流会が開催されました。

各館によって、活動の体制や内容は実にさまざま。かなり専門的な研究会を行っていたり、館とは別の組織に所属していたり。ただ、お客様への対応や、若い年齢層のボランティア参加をどう促すかなどはどこも共通する課題であり、各自の事例や取り組みに関心が寄せられ、ときに笑い声があがっていました。

みなとびあのほか、北区郷土博物館、江南区郷土資料館、曾我・平澤記念館、旧笹川家住宅、岩室民俗史料館、旧小澤家住宅でボランティア活動をされている方々にご参加いただきました。

↓「みなとびあで絵を描こう」の受付・写生・作品展示の様子



普段見れないものを見てかいて、うれしかったです。



すずしくて良かった。

すぐたのしかったです。

8/2 第6回みなとびあで絵を描こう

毎年、敷地内の好きな場所で自由に風景画を描いていただいていた「みなとびあで絵を描こう」ですが、今年は収蔵品の写生に挑戦しました。これは、「博物館にはせっかくすばらしい資料があるのだから、ぜひその写生をしてもらってはどうか」というボランティアメンバーからの提案によるものです。

当日は写生会目的の参加者だけでなく、スタッフのみなさまによる声かけによって、計19名の方にご参加いただきました。真夏の季節に、涼しい館内での写生という点はなかなか好評で、年齢層も幅広いものとなりました。

もちろん収蔵品の写生は試みの一つです。次回写生会を開催する場合には、またスタッフ・参加者の声や提案をもとに、自由に企画されていくとよいと思います。

参加者の声

子どもと一緒に絵を画いたり、昔の生活用品を眺めたり、色々楽しめた。

今回初めてだったので、野外も描きたいと思った。



もっとかく時間がたくさんあった方がいいと思いました！！

10/12 ボランティアフェスティバル

今年も恒例の塔屋見学会、敷地・常設ガイド、体験プログラム、まちあるきが開催されました。当日はあいにくの天気で、思った以上に来場者が少ない結果となってしまいました。この結果についてボランティアのみなさまからさまざまなご意見をいただいています。本イベントについて改めて考える、よい機会になりそうです！



受付をやらせていただきました。お客様が帰られる時「おもしろかった」「良かった」「想像していたより違って良かった」等の声がありました。

今回初めて参加させていただき、方法など教えていただき理解できました。又参加したいですね。

(齋藤さん)

常設のお客様では、時間がない方が多かったのですが、関心を持って聞いていただき、良い時間を過ごせたと喜んでもらい嬉しかったです。

次回も計画されましたら、参加させていただきたいと思います。

(飯野さん)



敷地ガイドとしてのデビューはボランティアフェスティバルでした。塔屋見学受付場所付近でフラフラしていたら、突然に塔屋見学時間待ちの六十歳台ご夫婦の敷地ガイド役を私に振られてきました。心の準備が無く、周章ててしまいました。しかし挨拶を交わし、話し始めて直ぐにご主人が昨日の新潟マラソンに参加されたことを知り、私も愛好しているマラソンの話に花が咲きました。その為、僅かな待ち時間があつという間に来て、本来の敷地ガイドが中途半端となり、奥さんには不満が残った事と思われる。千葉県から来られたとのこと。遠来の未知の方と話ができた喜びと同時に、ガイドとしての責務を改めて認識した貴重な初体験でした。

(松川さん)



ふろしき遊びをお手伝いしましたが、昔ながらのふろしきの便利さに皆さん驚いてくださり楽しかった様子です。外国のお客様は忍者の姿に大喜びで写真をとっておられました。活用したいと思いますと言ってくださいました。

(飯野さん)

【編集後記】28号は、夏から秋にかけてのボランティアのみなさんの活躍をお伝えしました。新たな企画への挑戦、恒例のイベントの改善など、課題は尽きません。みなとびあという場所をどう活用できるのか、どう楽しめるのか、一緒に考えていきたいと思います。

(中村)

みなとびあ歴史発見プロジェクトは、こどもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史に親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、まもなく開港150周年を迎える新潟の街をみんなで盛り上げていこう！という事業です。

「みなとびあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体のみなさんからご協賛をいただいています。

